

第17回（平成31年度第1回）
セーフコミュニティ外傷等動向調査委員会
《会議次第》

日時：平成31年4月11日（木）18:30～

場所：市庁舎13階1301会議室

1. 開 会

2. はじめに

（1）副委員長の選任について

3. 報告事項

（1）国内外のセーフコミュニティの現況について

（2）平成31年度の主なスケジュールについて（資料；年間スケジュール）

4. 協議事項

（1）今後のデータ収集方針（案）について（資料；再認証申請書抜粋）

（2）次回のセーフコミュニティ実態調査の基本方針（案）について（資料；H29実施説明）

（3）高齢者の自宅浴槽での溺死溺水に関する対応（案）について（資料；チラシ）

（4）SCの取り組みや対策委員会間の連携について

5. その他

6. 閉 会

久留米市セーフコミュニティの取り組み検証

<ハドンマトリックス編>

重点分野(交通安全)

重点項目(高齢者の交通事故防止)

具体的施策()

記載例

段階		ヒト	モノ	環境(ハード&ソフト)	
取組の対象		①運転者 ②高齢者	①自動車 ②歩行・自転車	道路	交通法規
課題点		①運転者は相手が見えにくい ②高齢者は体力低下に気づいてない	① ②高齢者は暗い色の服を着て見えにくい	暗くてよく見えない	
発生前	事故の予防	①安全教育(運転者) ○□△ ②安全教育(高齢者) ○□△ → 正しい乗り方	①(自動車)自動停止機能 ②(自転車)自転車の安定向上 (歩行者)反射材	①外灯の設置 ●◎○ ②歩道の整備 ●◎○	
発生時	事故発生時のケガ予防	① ②安全教育(高齢者) ○□△ → ヘルメット着用	①車のボンネットにエアクション ②安価なヘルメットの開発		
発生後	生命維持・重症化予防				

実施者 ⇒ ●国 ◎県 ○市 △警察 ★民間企業等 □地域

【セーフコミュニティ】年間スケジュール

業 務	H30			H31										備考		
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月		2月	3月
SC推進協議会					←調整会議→	←本部会議→	←協議会→					任期満了 11/8				
SC対策委員会	1/25 ● 事務局会議	←対策委員会→					任期満了 7/31	←対策委員会(2回程度開催)→								
外傷等動向 調査委員会		←外傷委員会→						←外傷委員会(2回程度開催)→								
SCフェスタ								←SCフェスタ→								

国際認証第2期(2019～2023)の主な予定

- | | |
|-----------|--|
| 2019(H31) | ◎今後5年間の基本的な方針の決定
◎次回「セーフコミュニティ実態調査」の概要検討と整理 |
| 2020(H32) | ◎次回「セーフコミュニティ実態調査」の決定と実施、集計・分析 |
| 2021(H33) | ◎取り組みの骨格の検証と見直し
●重点取り組み分野と項目の見直し
●国際認証の再々取得の意思決定 |
| 2022(H34) | ◎国際認証の再々取得のための事前指導 |
| 2023(H35) | ◎国際認証の再々取得のための現地審査 |

<協議事項>

（１）今後のデータ収集方針（案）について

○協議内容；次回の重点分野等の当市 SC の取り組みの骨格を検証・見直しするためのデータ収集方針をご検討いただきます。

①新たな重点取り組み分野や取り組み事項の候補は？

②①を検討するために必要なデータとその収集方法は？

<協議事項>

（２）次回のセーフコミュニティ実態調査の基本方針（案）について

○協議内容；次回のセーフコミュニティ実態調査の基本方針（案）について、
前回（２９年度実施）を参考にご検討いただきます。

①実施時期：２０２０年（前回の３年後）

以後の実施サイクルは現行の３年から５年に

②調査地域：市内全域

③調査対象：市内在住の２５００人

（年齢区分を１７歳以下、１８～６４歳以下、６５歳以上に）

参考 ４２０人 １４１０人 ６７０人

④調査方法：対象者を住民基本台帳から二段無作為抽出し、
調査票配布と回答回収とも郵送とする

⑤市民意識調査との調整

毎年実施している市民意識調査のある質問（行政施策等に関する意識等）のみ
市民意識調査に残し、前回追加した分などは、SC実態調査に集約する。

⑥広聴・相談課が行うインターネット活用の「くるモニ」での調査可能性

<協議事項>

（３）高齢者の自宅浴槽での溺死溺水に関する対応（案）について

○協議内容；高齢者が自宅浴槽で溺死溺水することが多いことへの今後の対策をご検討いただきます。

①危険の広報啓発の強化

- ・「啓発チラシ」や「転倒予防パンフレット」の改訂配布
- ・チラシや上記パンフレット等の配布先の拡大
（住環境整備関係者との連携など）

②予防に関する具体策

- ・
- ・

<協議事項>

（４）SC の取り組みや対策委員会間の連携について

○協議内容；セーフコミュニティの取り組み効果を高めるため、取り組みや対策委員会間の連携事例等をご検討いただきます。

<現在の連携事例>

- ・「交通安全」と「防災」→ 安全安心マップの作成とその周知啓発等
- ・「防犯」と「学校」→ 自転車盗難防止の啓発（新中学１年生にチラシ）
- ・「DV 防止」と「児童虐待防止」→ パープル&オレンジリボン CP

<事前指導や現地審査での審査員からのアドバイス>

- ・「DV 防止」と「高齢者の安全」
- ・「自殺予防」と「防犯」
- ・「DV 防止」と「児童虐待防止」
- ・「自殺予防」と「学校安全」
- ・「DV 防止」と「防犯」
- ・「自殺予防」と「児童虐待防止」と「高齢者虐待防止」

久留米市のセーフコミュニティ推進の骨格（6分野10項目8対策委員会42施策）

重点取り組み分野 (6分野)	重点取り組み項目 (10項目)	対策委員会 (8組織)	No.	具体的施策 (42施策)	
交通安全	高齢者の交通事故防止	交通安全 対策委員会	1-①	運動能力や身体機能に着目した啓発・講習の実施	
			1-②	明るい服及び反射材の着用キャンペーンの実施	
			1-③	安全安心マップの作成	
	1-④		交通安全教室の実施		
	1-⑤		自転車安全利用キャンペーンの実施		
子どもの安全	児童虐待の防止	児童虐待防止 対策委員会	2-①	乳児家庭訪問事業の地域連携	
			2-②	赤ちゃんふれあい体験事業	
			2-③	児童虐待防止啓発事業	
	学校の安全	学校安全 対策委員会	3-①	校舎内で安全に過ごす意識付けと実践化を図る取り組みの実施	
			3-②	校舎外で安全に遊ぶ意識付けと実践化を図る取り組みの実施	
			3-③	のいじめの未然防止・早期発見・早期対応の取り組みの実施	
			3-④	火災・地震等の災害から身を守る安全教育の実施	
			3-⑤	交通安全教育の実施	
			3-⑥	地域・保護者と連携した交通指導の実施	
			3-⑦	防犯教育の実施	
			3-⑧	地域・保護者と連携した防犯の取り組みの実施	
	高齢者の安全	転倒予防	高齢者の安全 対策委員会	4-①	転倒予防に関する普及・啓発
		高齢者虐待の防止		4-②	転倒予防のための健康づくり、体力維持、介護予防
4-③				虐待や認知症に関する講演会・学習会の開催	
4-④				介護サービス提供事業所向けの虐待防止研修	
4-⑤				地域で高齢者を見守るネットワークの構築	
犯罪・暴力の予防	犯罪の防止・ 防犯力の向上	防犯 対策委員会	5-①	自転車ツーロックの推進	
			5-②	青パト活動団体の拡大・連携強化	
			5-③	安全・安心感を高めるための地域環境の整備	
			5-④	暴力団壊滅市民総決起大会等の開催	
			5-⑤	児童生徒、青少年への暴力団の実態や構成員になるのを防ぐための研修や啓発の実施	
			5-⑥	犯罪弱者に対するタイムリーな情報発信・啓発	
	DV防止・早期発見	DV防止 対策委員会	6-①	男女共同参画・DV防止に関する啓発の充実	
			6-②	教育現場等における予防教育の充実	
			6-③	パープルキャンペーンの実施	
			6-④	医療関係者に対する研修の強化	
自殺予防	自殺・うつ病の予防	自殺予防 対策委員会	7-①	ゲートキーパー研修	
			7-②	かかりつけ医と精神科医の連携強化	
			7-③	自殺対策連絡協議会等と協働した普及啓発活動の実施	
			7-④	民間団体と協働した相談の実施	
			7-⑤	生活困窮者からの相談支援	
防災	地域防災力の向上	防災 対策委員会	8-①	定期的な防災研修・訓練・啓発の実施	
			8-②	防災に精通しているリーダーの育成	
			8-③	名簿登録推進にむけた積極的な情報提供	
			8-④	災害時要援護者個別支援計画作成	
			8-⑤	地域の避難計画を作成	

セーフコミュニティ活動のこれまでの成果（1）

分野	重点取り組み項目	指標	23年度	29年度
交通安全	高齢者の交通事故防止	高齢者人口1万人あたりの高齢者関連事故発生件数	103.4件	92.1件 10.9%減少
	自転車事故の防止	自転車事故発生件数 (警察統計)	522件	368件 29.5%減少
子どもの安全	児童虐待の防止	赤ちゃんふれあい体験の実施校数		8校
	学校の安全	上津小学校のケガ発生件数 (日本スポーツ振興センターの災害給付対象のケガ)	95件	59件 ※H28年度 37.9%減少
高齢者の安全	転倒予防	自宅で転倒した経験のある高齢者の割合	20.4%	13.5% 6.9%減少
	高齢者の虐待防止	認知症サポーター養成講座の受講者数	1,133人	3,801人 3.4倍
犯罪・暴力の予防	犯罪の防止・防犯力の向上	一般刑法犯認知件数 (警察統計)	4,590件	2,297件 50.0%減少
		防犯カメラ設置地区と台数 (市設置分)		26地区 64台
		青パト活動実施中の校区数	12校区 ※H24年度	40校区 3.3倍
	DV防止・早期発見	デートDV講座の実施校数	6校 541人	9校 1,298人 2.4倍(受講者)
自殺予防	自殺・うつ病の予防	自殺者数	77人	52人 ※H28年 32.5%減少
		こころの相談カフェの相談者数		217人
防災	地域防災力の向上	自主防災訓練の開催回数とその参加者数	49回 2,696人	106回 6,473人 2.4倍(参加者)

セーフコミュニティ活動のこれまでの成果（2）

交通安全

- 「交通安全教室」の対象拡大
小学校に加えて、中学校や市立高校も開催
- 警察署との連携強化
自転車安全利用キャンペーン、飲酒運転キャンペーン実施
久留米警察署員へのSC研修の新規実施
- 高校生「自転車マナー」討論会の開催
- 民間企業からの新たな寄付
交通安全教室用の信号機寄贈

子どもの安全

- 上津小学校での取り組みモデルの確立
児童中心の取組み（校内放送、マップ作成等）
H29年度から市内全小学校に対象拡大
- 他の対策委員会との連携推進
登下校時の交通安全対策（パトロール、マップ）
避難訓練等の学校と地域の合同開催の検討
- 「赤ちゃんふれあい体験」の拡大
地域コミセンから小中学校でも開催へ拡大
- 「こども子育てサポートセンター」開設
妊娠から18歳までワンストップ相談

高齢者の安全

- 転倒予防啓発の強化
転倒予防パンフレット作成と啓発ルート増加
（4年間で24,000部配付）
- 地域での転倒予防・健康づくりの強化
仲間同士や個人等による地域開催の環境整備
（専門講師派遣、介護予防サポーターの育成）
- 事業者向け虐待防止研修対象者の拡大
介護サービス従事者のほか経営者も追加

犯罪・暴力の予防

- 青パト活動校区の拡大と連携
12校区から40校区へ
活動校区合同での青パトサミットの開催
- 民間企業・個人からの新たな寄付
青パト（12台）・ドライブレコーダー
- 街頭防犯カメラの設置
地域管理の防犯カメラの設置（H28年度開始）
- DV早期発見の環境整備
医師マニュアルの作成・配布と研修会開催

自殺予防

- 「久留米方式」の連携拡大
医師間連携に加え弁護士などとの連携も拡大
かかりつけ医から精神科医へのつなぎ強化
- 相談窓口の新たな開設
こころの相談カフェ（岩田屋と市立図書館）
久留米市生活自立支援センター（市役所内）
- ゲートキーパー研修の受講者増
対象の順次拡大（理美容師、タクシー組合等）
市内全46校区開催目標（H29年度末44校済）

防災

- 地域の自主防災組織の設置促進と活性化
「防災運動会」の開催や運動会への防災競技追加
地域主催「防災講演会」や実技型防災研修の開催
- 毎月21日緊急告知FMラジオ起動
- 毎年12月21日情報伝達訓練の実施
- 要援護者名簿を活用した図上訓練の実施
- 校区コミュニティ組織の活動
校区コミュニティの新たな内部防災会議の設置
広報紙（全戸配布）による防災対策の啓発

平成29年度久留米市のセーフコミュニティ実態調査について

	市民意識調査	セーフコミュニティ実態調査
調査目的	市民意識の動向と現在の多様な市民ニーズを科学的、統計的に把握し、今後の市の施策・事業の検討、推進、評価の基礎データに活用する。	当市が取り組むセーフコミュニティの具体的施策の根拠やその成果指標等の最新データとして収集し、来年度の再認証現地審査のデータに活用する。
調査サイクル	3年毎	3年毎
調査地域	市内全域	市内全域
調査対象者	市内在住の18歳以上の者 2000人	17歳以下、18～64歳、65歳以上の3区分 3500人
調査方法	住民基本台帳から二段無作為抽出 調査票郵送、回答訪問回収	住民基本台帳から層化二段無作為抽出 調査票配布、回答回収とも郵送
回答回収率	88.3%	57.3%
調査時期	H29.6.29～7.11	H29.8.17～8.31
調査主体	広聴・相談課	安全安心推進課